

## 愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ



市の歴史的遺産の認定及び歴史的資料の継承について



**議員** 市の遺産認定制度については、26年11月に質問したが、調査研究を行い検討するとの答弁であった。その結果を伺う。

### 教育部長

市では、認定という部分で職員の見識や真贋の判断等専門性を重く考え実施に至っていない。

### 議員

江戸後期から昭和にかけて水海道が隆盛を誇っていた時代、教育者や文化人、政治家が数多く輩出されていた。その時代背景をひも解き、遺産や偉人の精神を継承する事が現代に生きる我々の使命であり、再興の道と考えるがどのように考えるか。

### 教育部長

先人の事蹟を後世に継承することは、行政の責務のひとつであり、積極的に考えていきたい。

### 議員

当市に関連する偉人として、巢鴨プリズンに巢鴨学園を創立し、水海道市の教育長や水海道町議を務めた沼尻茂氏、私立学校菁莪学館を創立した安藤誠氏、土浦の常総学院の創立者の渡辺嘉重氏、水海道一高を誘致した渡辺華州氏などが挙げられる。また、大正時代にフォードの消防車を輸入した宝町町民、水海道小学校や警察署を寄付で建設した商人や町民も活躍した。そして、これらの史実を記す著作として沼尻茂氏著『楽苦我記』、小林正明氏著『安藤誠と菁莪学館』、石塚安一郎氏著『折りにふれて』、海老原良夫氏著『常総の隠れた英雄 鈴木頂行とその時代』などがある。行政として、これらの郷土の歴史的遺産や偉人の精神を継承するための具体案を尋ねる。

### 市長

郷土史を市の遺産として市民と共有できるよう、空き店舗などを活用して、街全体を郷土史館として利用できるようにしていきたい。

問 質 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI 問 質 問

## 水害でコメ作りをやめた農家の数は？



農業問題について



**議員** 水害で米作りを辞めた人の数は何人か。

### 経済環境部長

27年度8月時点での市内の水稲生産農家戸数は3908件、水害翌年の8月は3693件で215件の減少である。水害が直接の原因か否かという把握はしていない。

### 議員

米作りは基幹産業である。水害が原因で辞めた農家の数を正確に調べて記録として残すよう要望する。また、現代の子ども

たちに、アトピー性皮膚炎やアレルギー、花粉症等がふえており、農薬や除草剤を最小限に抑えることが求められている。おいしくて安心安全な減農薬米「めぐみちゃん」を圏央道インターチェンジの道の駅での売りにしたかどうか。手間のかかる減農薬米をつくる人をふやすには補助を増額すべきだ。

### 経済環境部長

「めぐみちゃん」の栽培農家数は11軒、10アル当たり3000円の補助の交付は継続し、増額は検討する。

### 議員

インター開発の公共事業には5億円の予算。米の価格保証である生産調整推進対策事業費の良品質米助成は1100万円分減額された。減農薬米を作る新規の人をふやすには補助を増やすべき。また、減農薬米を学校給食に使えないか。

### 経済環境部長

学校給食への地産地消の取り組みの中で協議していく。

### 議員

減農薬米の給食での使用は、初めは小学校1年生から始めるとか、作る人をふやしながらか、給食への使用量もふやす計画的な取り組みを進めてほしい。